

# 環境負荷低減のクロスコンプライアンスの「7つの取組」を実践しましょう！

環境にやさしく生産性も高い農林水産業の実現のための「初めの一步」として

## なぜ農林水産業で環境負荷低減に取り組むの？

農林水産業は環境の影響を受けやすいことに加え、農林水産業自体が環境に負荷を与えている側面もあります。このため、日頃の事業活動の中で新たな環境への負荷が生じないように、7つの基本的な取組を実践することが重要です。また、こうした取組を行うことが消費者の理解にもつながります。

## 環境負荷低減のクロスコンプライアンスの「7つの取組」とは？

環境負荷低減のクロスコンプライアンスは、①適正な施肥、②適正な防除、③エネルギーの節減、④悪臭及び害虫の発生防止、⑤廃棄物の発生抑制、適正な循環的な利用及び適正な処分、⑥生物多様性への悪影響の防止、⑦環境関係法令の遵守等の7つから構成されており、日頃の事業活動の中で意識すれば誰でも取り組むことができます。

ここでは、環境負荷低減のクロスコンプライアンスチェックシート農業経営体向け（ひな形）の取組例※を、各チェック項目につき一つずつご紹介します。

※ その他の取組例は「環境負荷低減のクロスコンプライアンスチェックシート解説書」をご確認ください。

## 1. 適正な施肥



必要な時期に、必要な量だけ施肥を行うことで、栄養分の流出や温室効果ガスの排出を削減するとともに、施肥のコスト削減につながります。

### チェック項目

### 取組例※

① 肥料の適正な保管	・肥料を直射日光や雨のあたらない場所に保管する。
② 肥料の使用状況等の記録・保存に努める	・記録の担当者・責任者を決めるように努める。
③ 作物特性やデータに基づく施肥設計の検討	・作物の生育状況に基づく施肥設計を検討する。
④ 有機物の適正な施用による土づくりの検討	・堆肥や有機質肥料、緑肥等を土づくりに活用することを検討する。

## 2. 適正な防除



病虫害・雑草が発生しにくい環境を整えましょう。防除の必要性や方法をよく考え、農薬を使用する場合は、ラベルの表示に従って正しく使いましょう。

### チェック項目

### 取組例※

⑤ 病虫害・雑草が発生しにくい生産条件の整備を検討	・病虫害の発生源となる雑草、作物残さ等の除去を検討する。
⑥ 病虫害・雑草の発生状況を把握した上で防除の要否及びタイミングの判断に努める	・発生予察情報の活用や農場や農場周辺の病虫害・雑草の発生状況の観察により、防除の要否及びタイミングを判断する。
⑦ 多様な防除方法(防除資材、使用方法)を活用した防除の検討	・防虫ネット、粘着シート、マルチ等の物理的防除の活用を検討する。
⑧ 農薬の適正な使用・保管	・ラベルに記載されている適用作物、使用方法、使用上の注意事項等を確認する。
⑨ 農薬の使用状況等の記録・保存	・記録の担当者・責任者を決める。

### 3 エネルギーの節減



必要な時期に、必要な量だけ電気・燃料を使用することで、温室効果ガスの排出を削減するとともに、エネルギーコストの低減につながります。

#### チェック項目

#### 取組例※

- ⑩ 農機、ハウス等の電気・燃料の使用状況の記録・保存に努める
- ⑪ 省エネを意識し、不必要・非効率なエネルギー消費をしないように努める

- ・農場内で使用しているエネルギー（電気、燃料等）について、伝票の保存等に努める。
- ・不要な照明はこまめに消灯する。

### 4 悪臭及び害虫の発生防止



臭いや害虫の発生源を適切に管理することで、農場周辺の住民や農業者等への影響を防ぎ、良好な関係構築につながります。

#### チェック項目

#### 取組例※

- ⑫ 悪臭・害虫の発生防止・低減に努める

- ・堆肥や肥料を施用する際の飛散防止に努める。

### 5 廃棄物の発生抑制、適正な循環的な利用及び適正な処分



廃プラスチックや作物残さ等の廃棄物の発生抑制、再生利用による資源の有効活用により、温室効果ガスの排出や栄養分の流出を削減するとともに、処理コストの低減につながります。

#### チェック項目

#### 取組例※

- ⑬ プラ等廃棄物の削減に努め、適正に処理

- ・農業生産活動に伴い発生する廃棄物については産業廃棄物として適正に処分する。

### 6 生物多様性への悪影響の防止



防除が必要かどうか確認し、どのような防除方法が良いか検討することが、農場及び周辺環境の生物への悪影響の防止につながります。

#### チェック項目

#### 取組例※

- ⑭ 病害虫・雑草の発生状況を把握した上で防除の要否及びタイミングの判断に努める
- ⑮ 多様な防除方法(防除資材、使用方法)を活用した防除の検討

- ・発生予察情報の活用や農場や農場周辺の病害虫・雑草の発生状況の観察により、防除の要否及びタイミングを判断する。
- ・防虫ネット、粘着シート、マルチ等の物理的防除の活用を検討する。

### 7 環境関係法令の遵守等



みどり戦略を通して環境負荷低減に関連する基本的な取組や、自らの営農に関連のある環境関連法令を確認しましょう。また、作業手順や危険箇所の確認を心がけることで、より安全な作業環境の確保につながります。

#### チェック項目

#### 取組例※

- ⑯ みどりの食料システム戦略の理解
- ⑰ 関係法令の遵守
- ⑱ 農業機械等の装置・車両の適切な整備と管理の実施に努める
- ⑲ 正しい知識に基づく作業安全に努める

- ・「環境負荷低減のクロスコンプライアンスチェックシート解説書―農業経営体編―」に記載されているチェックの判断基準となる取組内容を理解する。
- ・自らの経営に関連する環境関係法令を遵守する。
- ・農業機械の日常点検・定期点検、整備の実施に努める。
- ・正しい知識に基づく作業方法の改善や機械器具の操作に努める。

「環境負荷低減のクロスコンプライアンスチェックシート解説書」やチェックシートのひな形は、農林水産省HPに掲載されています。

こちらからアクセス



農林水産省ホームページ  
「環境負荷低減のクロスコンプライアンス」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/kurokon.html>

#### 【お問合せ先】

農林水産省大臣官房  
みどりの食料システム戦略グループ  
(直通) 03-6744-1865